

保健活動リレーエッセイ

“まちの健康支えます！”

阿蘇市 保健師 蔵原眞由美

大きな目標達成も 地道な訪問・面接の積み重ねから

阿蘇山の噴火で、県内はもとより全国各地から「大丈夫ね」「どこに避難してるの？」と声を掛けていただいています。ありがとうございます。噴煙は今も勢いよく上がっていますが、おかげさまで日常生活はいつもと変わらず送れています。

目下（9月から10月にかけて）、特定健診後の保健指導真っ最中です。保健師・栄養士とも、結果報告会に、訪問に、走り回っています。平成20年度に特定健診・保健指導が始まってから、本当に住民の方に会う回数が増えました。慣れないうちは、住民の方に「保健師が何しに来たと？ よっぽど結果が悪いんじゃないだろうね」とげげんな顔をされることもしばしば。老人会では人気者だった(?)のに、青壮年層では「保健師って何をする人なのか知らない」という人も多かったと思います。地区担当として毎年顔を合わせることで、やっと「丁寧に説明してくれてありがたい」と言ってくれる人も出てきました。母子の訪問も地区担当で行い、スーパーでも声を掛けてもらえるようになりました。

阿蘇市は前回の津奈木町さんと同様、「腎不全及び糖尿病等対策推進検討会」のモデルになり、熊本県国保連合会には本当にお世話になっています。昔から医療費の高い町村が合併したので当初から「少しでも医療費を抑制すること・住民の健康を守ること」を目標にしていたのですが、具体的な手段がわからずにいました。そんな中でモデル事業や連合会の学習会等を経て、少し背伸びしながら実践を積んできました。

住民の健康を守り、医療費を抑制するという遠大な目標を達成することは、目の前の「私の地区の〇〇さん」と会うことの積み重ねの結果なのだと実感しています。



ほけん課の保健師・栄養士（前列右から2人目が筆者）



噴煙を上げる阿蘇中岳

次号執筆者は山鹿市の保健師の予定です。